

平成29年度の重点的な取組に関する点検・評価項目例

教育指導局人権同和教育課

今年度の重点的な取組	重点努力事項	点検の視点	管理職	教職員	子ども(幼児児童生徒)
<p>「人権尊重の精神に立った学校(園)づくり」</p>	<p>1-(1) より立った課題を解決する。推進体制の機能強化と研修の充実。学校や地域におけるこれまでの取組の成果と課題から「人権尊重の精神に」</p>	<p>○教職員における人権教育の目標の理解</p>	<p>①今年度の取組の方針や重点的な取組など、人権教育の目標達成のためのビジョンを示している。 ・自らの言葉で人権について教職員、家庭、地域に語っている。 ・家庭訪問等、教職員が子どもと向き合う時間を確保するよう配慮している。</p>	<p>①学校全体で、配慮や支援を要する子どもへの支援体制について共通理解を図り、一人一人を大切にした指導を行っている。 ・家庭訪問等により生活実態や生活実感を把握するなど、子どもの生活背景を理解している。</p>	<p>①自他を大切にする学級の雰囲気の中で、自分の居場所があり、みんなが協力し合っている。 ・一人一人の自尊感情が育まれている。</p>
		<p>○学校全体としての取組の進捗 ・課題解決のための特色ある取組</p>	<p>②「人権尊重の精神に立った学校づくり」に向けて、教職員がその趣旨を理解し、組織的に改善を図るよう配慮している。</p>	<p>②弱い立場にある子どもを中心に据えて、互いの人権を尊重し、支え合う集団づくりを進めている。 ・自らの人権意識を絶えず見つめ直している。 ・子どもたちに、心の通じ合うコミュニケーション能力を育てている。</p>	<p>《日常生活の中で自発的に行動する姿》 ②誰かがつらい(悲しい)思いをしているとき、一緒に考える姿がある。</p>
		<p>○学校全体としての組織体制の構築 ・管理職、人権教育主任、研究部・生徒指導部・各学年部等の有機的な連携</p>	<p>③「報告・連絡・相談」による的確な判断、情報の共有化、スピード感を持った対応を行っている。</p>	<p>③管理職の指導により、人権教育主任が役割を自覚し、他の主任と連携を図りながら取り組んでいる。 ・差別事象、いじめ発生時の対応や未然防止に向けて組織的に取り組んでいる。</p>	<p>③誰かがいじめや人権侵害を受けているとき、それを止める姿がある。</p>
		<p>○知的理解と人権感覚の育成に向けた指導の効果</p>	<p>④人権意識を高めるため、校外での研修や教職員同士のOJTを計画的に進めている。 ・人権を大切にしよう教職員集団を育てている。</p>	<p>④関係法令・施策等の理解、当事者に学ぶ研修等を通して、基本的認識の深化や実践的指導力の向上を図っている。 ・お互いに日頃の教育実践に関わって教え合うことを大切にしている。</p>	<p>④問題が起こったとき、みんなで話し合っ解決している。</p>
		<p>○家庭・地域との連携の強化 ・家庭・地域に対する情報提供、家庭教育への支援</p>	<p>⑤「人権教育・啓発リーフレット」等を活用し、学校における人権教育の理解・啓発を図っている。</p>	<p>⑤授業参観や学級通信の発行等、機会をとらえて人権教育・啓発を図っている。</p>	<p>⑤学級での出来事や人権学習で学んだことを、家庭の中で積極的に話している。</p>
<p>保護者が学んだことや感じたことを家庭の中で話題にしている。</p>					